

編集
後記

熊本の大震災も大惨事で、大勢が生活に困窮しています。心温かな多くの支援があり苦しい中にも希望があるようです。今回も生と死を再考させられました。余震で家が傾き翌日の本災で倒壊し途方に暮れた5人家族がニュースで映し出されました。長男は高校でボランティア活動を、末っ子の小学生は久しぶりの授業で「生きるとは？」という課題作文で「生きるとは家族みんなと一緒にご飯を食べること、そんな当たり前のことが大切だったと気づきました」と発表していました。涙がスーとあふれ止まりませんでした。この子の父親も映像を見て「こんな大変なことになって希望もなくなったように思えたけど、この子達がこんな風を感じてくれたなら、まだ良かったかもしれない」と語っていました。苦は単に苦ししいだけでないような気がします。もちろん耐えがたい苦痛はない方がいい、なくした方がいい。生と死のギリギリの中で苦だけに終わらず希望を絶やさないことが大事。見ざる、聞かざるで過ぎていく時代は終わり、誰もが生と死を身近に感じています。(家田 秀明)

秋月 伸哉
家田 秀明
岸田さな江
齋藤 義之
佐藤 一樹
○恒藤 暁
久原 幸
龍 恵美